

平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（S））研究状況報告書

◆ 記入に当たっては、「平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（S））研究状況報告書記入要領」を参照してください。

ローマ字		UZAWA HIROFUMI					
① 研究代表者氏名		宇澤 弘文		② 所属研究機関・部局・職		同支社大学・研究開発推進機構・教授	
③ 研究課題名	和文	社会的共通資本の理論的、制度的、歴史的研究					
	英文	Theoretical, Institutional, and Historical Studies of Social Common Capital					
④ 研究経費		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	総合計
18年度以降は内約額 金額単位：千円		10,300	11,600	11,600	11,600	11,600	56,700
⑤ 研究組織（研究代表者及び研究分担者） *平成18年3月31日現在							
氏名	所属研究機関・部局・職	現在の専門		役割分担（研究実施計画に対する分担事項）			
宇澤 弘文	同志社大学・研究開発推進機構・教授	経済学		総括、社会的共通資本の理論的モデルの構築			
篠原 総一	同志社大学・経済学部・教授	国際経済学		社会的共通資本の理論的、制度的研究			
室田 武	同志社大学・経済学部・教授	資源経済学		社会的共通資本としての自然環境の研究			
西村 理	同志社大学・経済学部・教授	文化経済学		社会的共通資本の理論的、学説的研究			
西村 卓	同志社大学・経済学部・教授	日本経済史		社会的共通資本の歴史的、文化的研究			
⑥ 当初の研究目的（交付申請書に記載した研究目的を簡潔に記入してください。）							
社会的共通資本の理論的、学説的、制度的、歴史的、文化的側面について総合的な研究を行う。							
(1) 理論的側面 大気、森林、河川、水、土壌などの自然環境、道路、公共的交通機関、上下水道、電力・ガスなどの社会的インフラストラクチャー、さらに教育、医療、司法、金融制度、都市、農村などの制度資本から成る社会的共通資本の主要な構成要素について、その技術的、経済的、社会的、文化的特質を浮き彫りにするような理論的モデルを構築し、その制度的、政策的含意を明らかにする。							
(2) 学説的側面 社会的共通資本の考え方が、経済学の歴史の中で、どのように位置づけられてきたかを考察する。							
(3) 制度的側面 社会的共通資本の重要な構成要素について、それぞれの目的が効果的に達成でき、社会的共通資本の重要な構成要素である自然環境、農村、都市、教育、医療、金融の各分野について、それぞれの果たしてきた社会的、経済的な役割を分析し、持続的な経済発展が可能になるためには、どのような制度的前提条件が満たされなければならないかを考察する。							
(4) 歴史的・文化的側面 社会的共通資本は、一国または特定地域の歴史的、文化的な環境に影響を受けるなかで、どのような関わりを持ってきたかを考察する。							

⑦これまでの研究経過（研究の進捗状況について、必要に応じて図表等を用いながら、具体的に記入してください。）

社会的共通資本の理論的、学說的、制度的、歴史的、文化的側面について総合的な研究を行った。

(1) 理論的、学說的側面に関して、大気、森林、河川、水、土壌などの自然環境、道路、公共的交通機関、上下水道、電力・ガスなどの社会基盤、教育、医療、司法、金融制度、都市、農村、文化資本などの制度資本からなる社会的共通資本の主要な構成要素について、技術的、経済的、社会的、文化的特質を浮き彫りにするような理論的モデルを構築し、その制度的、政策的含意を明らかにする作業を行った。

1960年代から1990年代にかけて展開された動学的最適資本蓄積の理論、内生的経済成長の理論、時間選好の一般理論に加えて、1980年代から現在にかけて展開された社会的共通資本の経済理論を有効に適用し、これらの理論の深化、展開を通じて経済学の動学理論の発展に寄与した。とくに John Stuart Mill が *Principles of Political Economy*(1848)で導入した、古典派経済学を象徴するものとしての Stationary Sate の概念を厳密に定式化した。そして Mill の Stationary Sate は果たしてどのような制度的条件のもとで可能となるかという Thorstein Veblen による、いわゆる制度学派的問題提起に答えて、社会的共通資本の動学理論の構築を試みた。これらの研究成果は、H. Uzawa, *Economic Analysis of Social Common Capital*, Cambridge University Press (2005)として刊行された。その構成は次の9章からなる。

- 1 Fisheries, Forestry, and Agriculture in the Theory of the Commons
- 2 The Prototype Model of Social Common Capital
- 3 Sustainability and Social Common Capital
- 4 A Commons Model of Social Common Capital
- 5 Energy and Recycling of Residual Wastes
- 6 Agriculture and Social Common Capital
- 7 Global Warming and Sustainable Development
- 8 Education as Social Common Capital
- 9 Medical Care as Social Common Capital

(ii) 制度的、歴史的、文化的側面に関して、自然環境については、主として地球温暖化の問題について、Karl-Goran Maler, Partha Dasgupta, Robert M. Solow と行ってきた共同研究を深化するとともに、その現実的可能性を検討する。教育、医療については、George Akerlof, Kenneth J. Arrow, Karl-Goran Maler と日本、スウェーデン、米国についての国際比較を中心として研究を進めるとともに、日本政策投資銀行設備投資研究所の研究者との共同研究を進めた。これらの成果は、平成18年度に開催される国際医療フォーラムで発表する予定である。*Economic Affairs*『社会的共通資本としての教育』、『社会的共通資本としての医療』という二冊の共同論文集として東大出版会から刊行される予定である。

都市の問題については、1980年代の終わり頃から展開されつつあるEUの主導するヨーロッパにおける都市のルネッサンスを調査し、その政策的含意を考察するため、2004年9月、2005年3月の二回にわたって、スペイン、ドイツに調査団を派遣した。

⑧特記事項 (これまでの研究において得られた、独創性・新規性を格段に発展させる結果あるいは可能性、新たな知見、学問的・学術的なインパクト等特記すべき事項があれば記入してください。)

⑨研究成果の発表状況 (この研究費による成果の発表に限り、学術誌等に発表した論文(掲載が確定しているものを含む。)の全著者名、論文名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)、及び国際会議、学会等における発表状況について記入してください。なお、代表的な論文3件に○を、また研究代表者に下線を付してください。)

- Hirofumi Uzawa *Economic Analysis of Social Common Capital*
Cambridge University Press, pp. 406, 2005.
- 宇沢弘文著 『社会的共通資本と設備投資研究所』
日本政策投資銀行設備投資研究所、245 ページ、2005 年。
- 宇沢弘文 「ケインズと『一般理論』」
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 9、17ページ、2005年。
- 宇沢弘文 「コモンズにはじまる信州ルネッサンス革命」
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 1、30ページ、2004年。
- Takeshi MUROTA *History and Current State of the Commons in England and Wales*
: John S. Mill at a Turning Point: Retasking the Commons from
Assuring Peasant Livelihood to Conserving the Environment for ALL
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 2、14ページ、2004年。
- Osamu NISHIMURA *The Role of Bamboo in the Sustainable Economic Development*
: From a Viewpoint of Social Common Capital
JSME International Journal, Vol. 47, No. 4, pp. 527-532, 2004.
- 宇沢弘文 「森林、コモンズ、社会的共通資本」
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 4、22ページ、2004年。
- 西村 理 「『ゆたかな社会』に求められるもの」
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 6、14ページ、2004年。
- 宇沢弘文 「社会的共通資本としての医療」
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 7、23ページ、2004年。

⑨研究成果の発表状況（続き）（この研究費による成果の発表に限り、学術誌等に発表した論文（掲載が確定しているものを含む。）の全著者名、論文名、学協会誌名、巻（号）、最初と最後のページ、発表年（西暦）、及び国際会議、学会等における発表状況について記入してください。なお、代表的な論文3件に○を、また研究代表者に下線を付してください。）

西村 理 「市場主義と企業文化」
同志社大学社会的共通資本研究センターディスカッションペーパー
No. 8、13ページ、2005年。

宇沢弘文 「特別論文 戦後60年 教育基本法の原点に戻って根本的な教育改革を」
『週刊エコノミスト』 8月16・23日合併号、80-85ページ、2005年。

西村 理 「共生社会における公共政策のあり方」
畑中労働経済研究所『労働経済情報』Vol. 21、10-17ページ、2005年。

西村 理 「市場社会のチェック機能と企業文化」
『現代の理論』Vol. 4、487-98ページ、2005年。